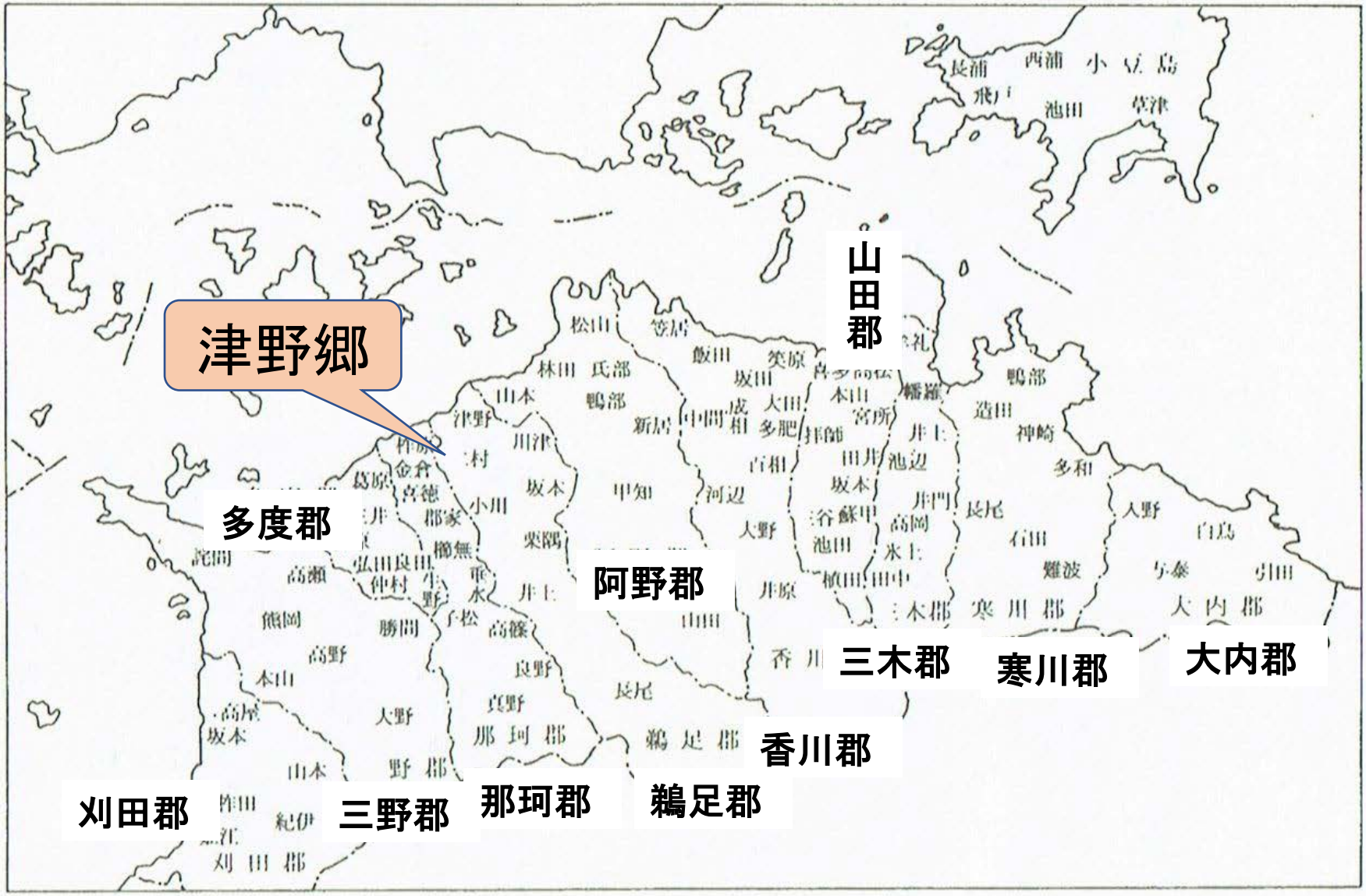
港町・宇多津（まとめ）

- 古代：鵜足郡の津は青の山南（海岸線+3.5m）
  現宇多津集落は無く、神社(磐境)と聖通寺半島
- 中世：海岸線+2.5mで河口がラグーン、良港（荷物多し）
  寺社(30箇所)、商業発展　**栄えた時期**
- 近世：江戸時代初期、高松・丸亀藩に寺が移動。
  高松藩米蔵が設置
  塩田・新田建設開発等の、海岸土木工事で土地広がるも、
  幕末期、町や港機能は低下。
- 近世明治以降塩田拡張(200ha)、港機能は限定的
- 現代塩田は商業・住居地となり港機能を失うが、鉄道での
  四国玄関口となる。

鵜足郡の津（古代）



郡郷の配置

古代の港（縄文海進　+3.5m）

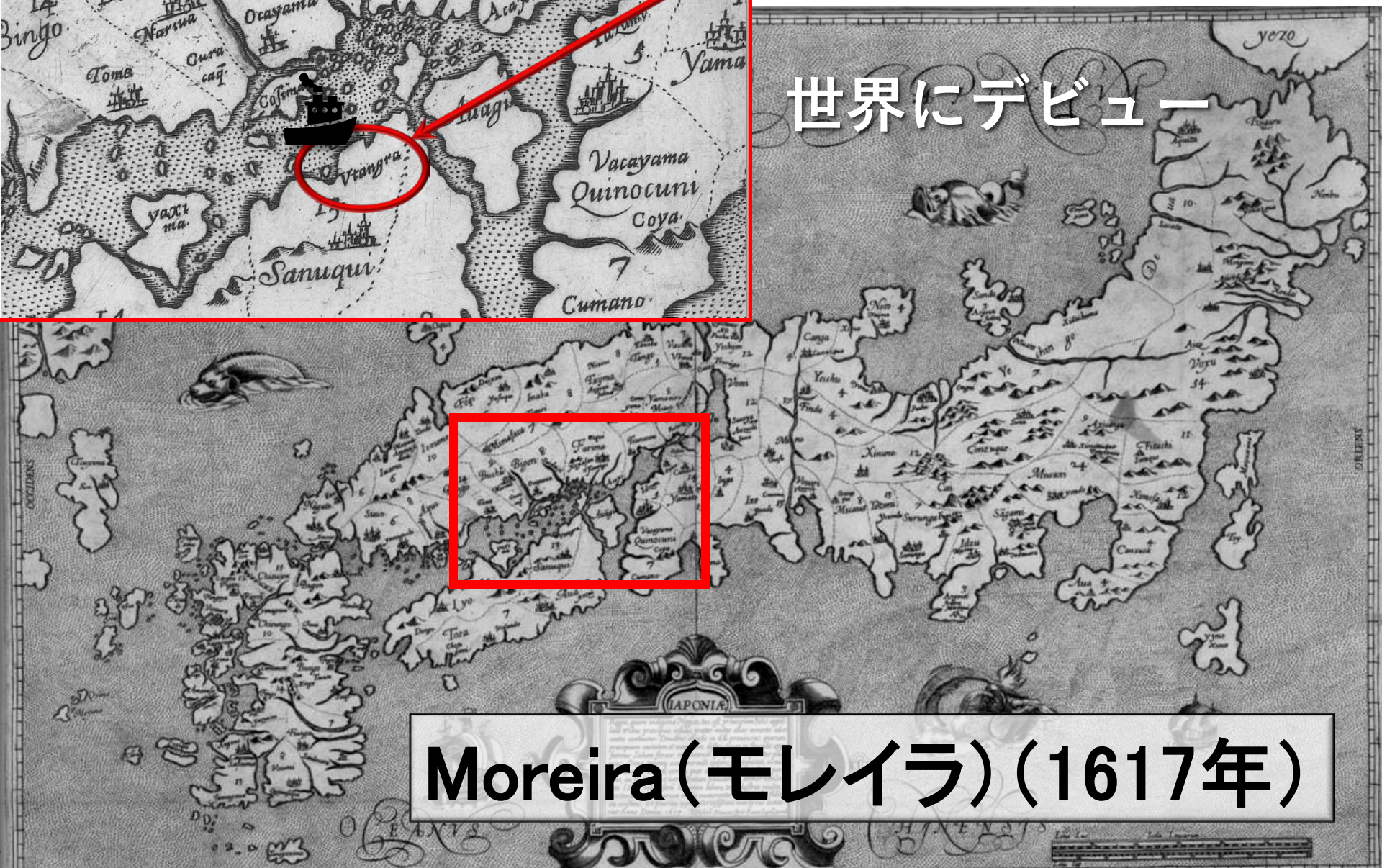
宇多津の輝ける時代（中世）

兵庫北関入船納帳（1445年）　1981年公開

宇多津、平山発の多くの入船記述

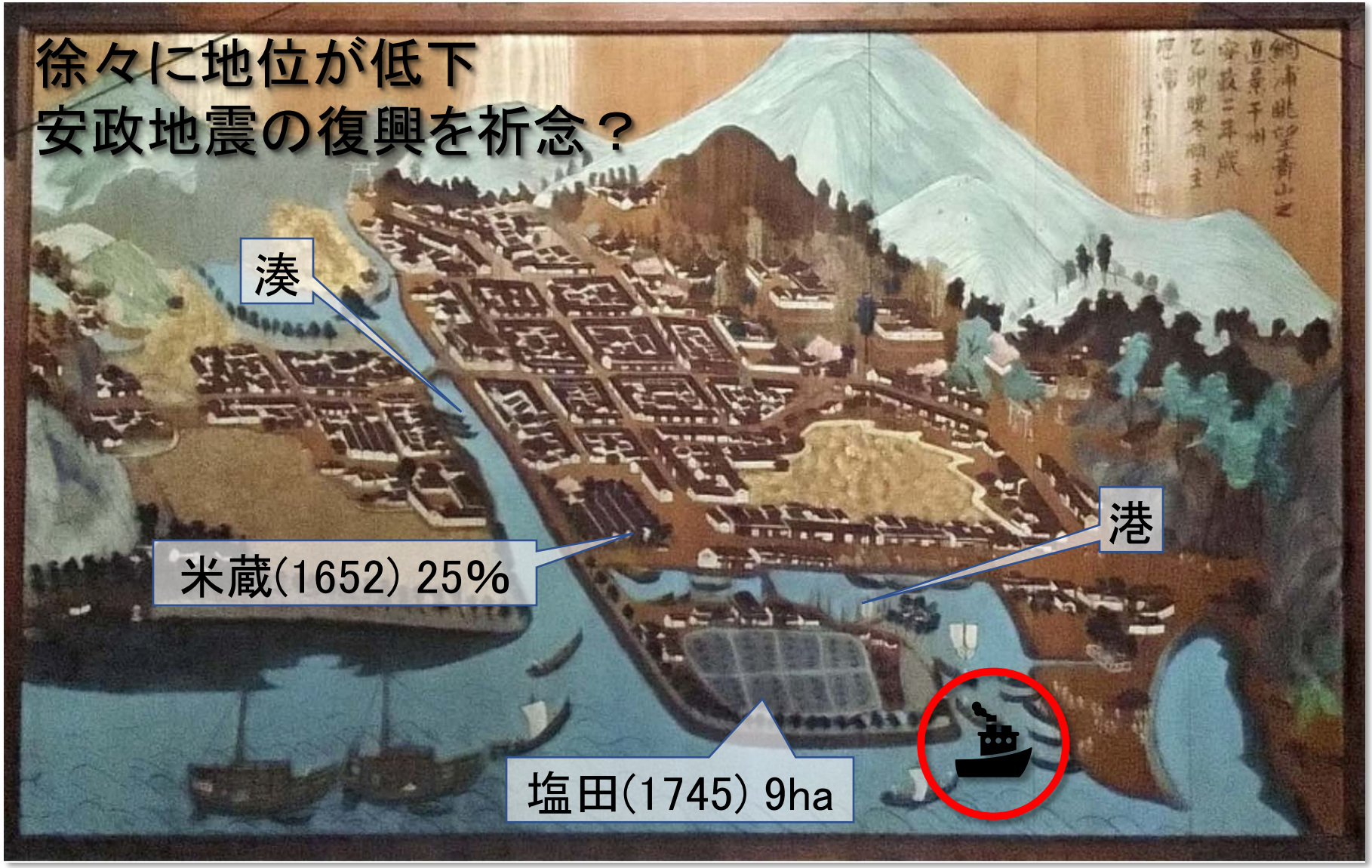
Vtangra（うたんぐら）

世界にデビュー

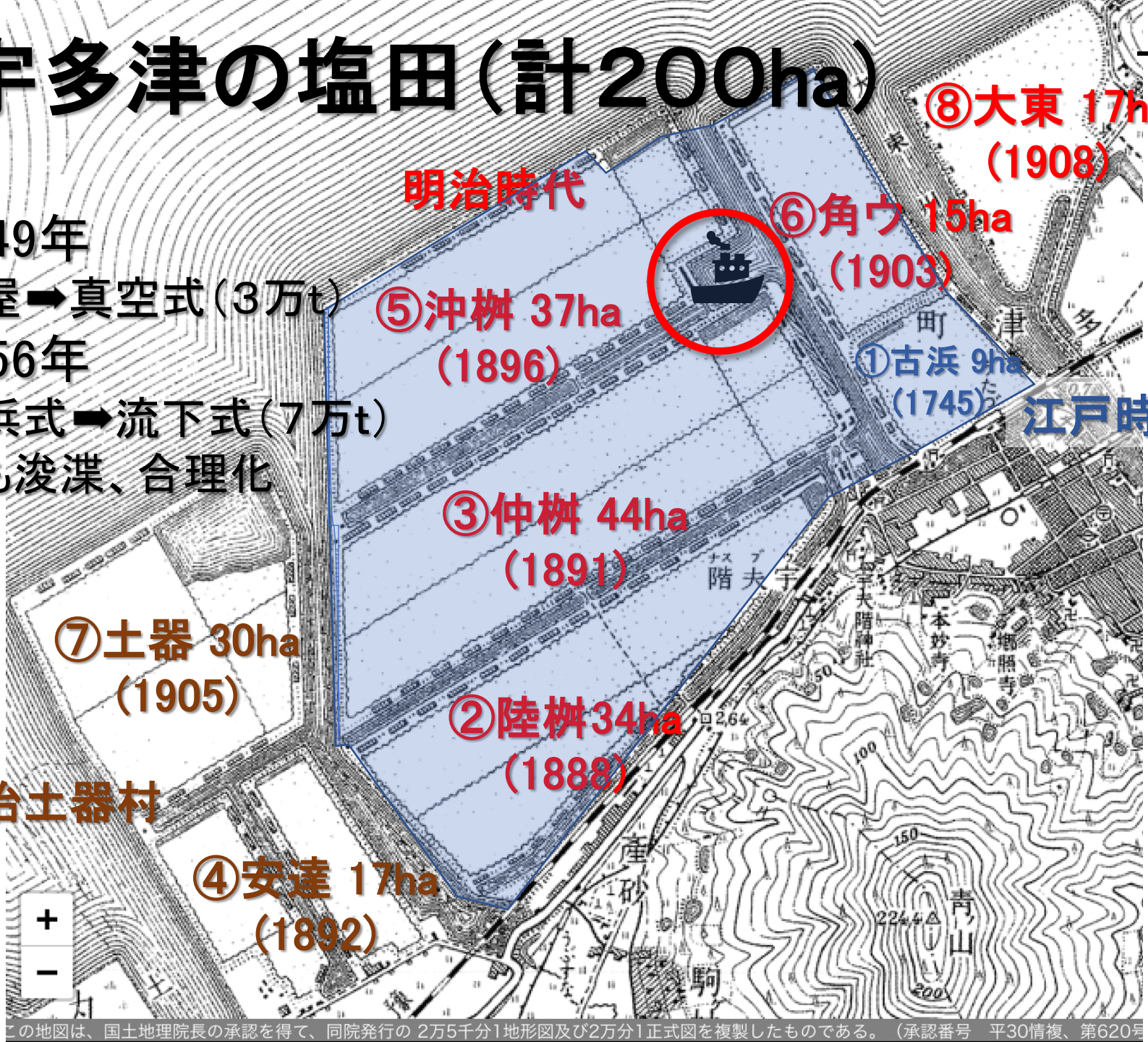


Moreira（モレイラ）（1617年）

安政2年(1856)奉納金比羅宮絵馬

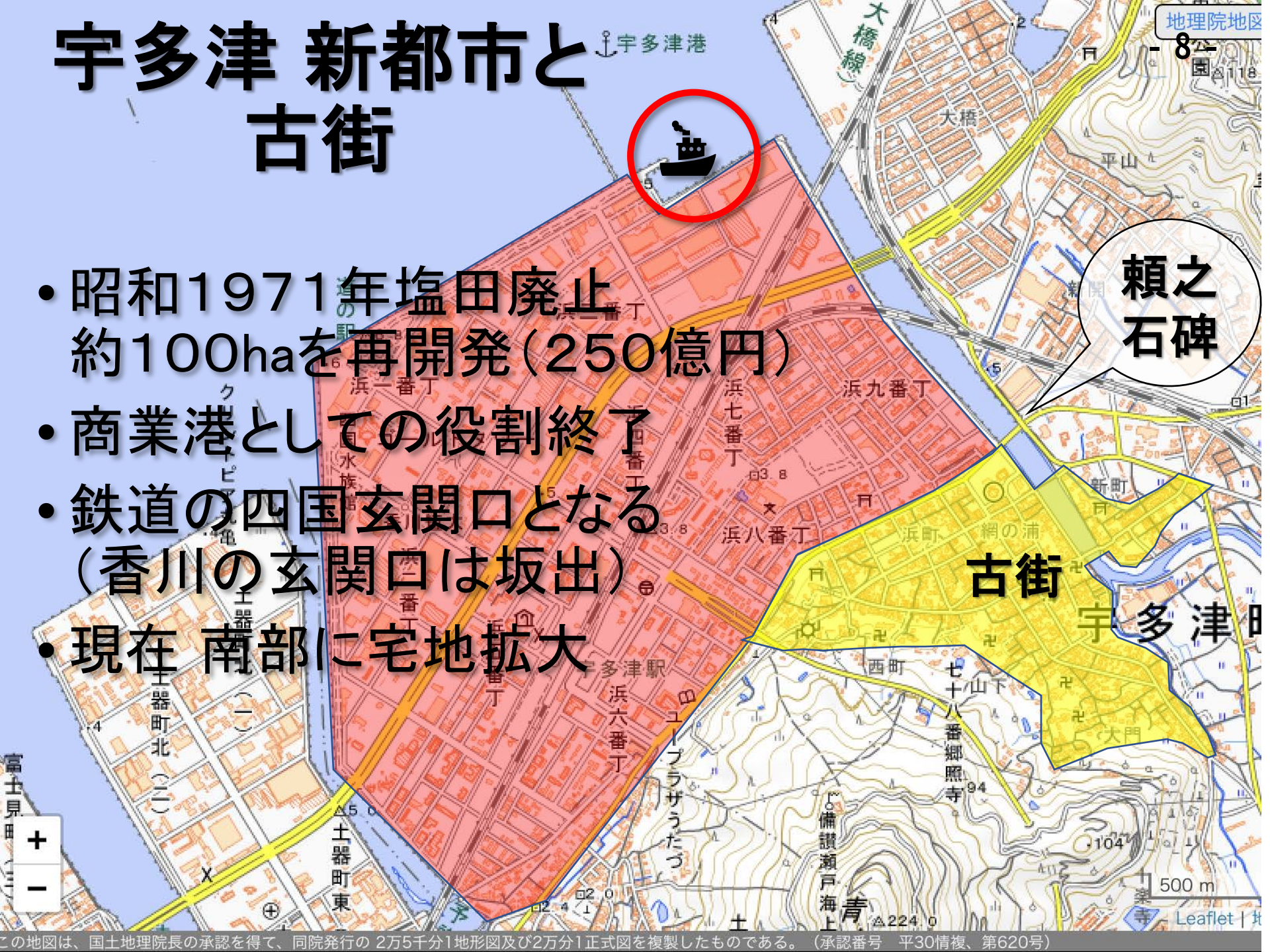


宇多津の塩田（計200ha）



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2万5千分1地形図及び2万分1正式図を複製したものである。（承認番号　平30情複、第620号

宇多津 新都市と古街



- 昭和1971年塩田廃止
  約100haを再開発（250億円）
- 商業港としての役割終了
- 鉄道の四国玄関口となる
  （香川の玄関口は坂出）
- 現在 南部に宅地拡大

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2万5千分1地形図及び2万分1正式図を複製したものである。（承認番号　平30情複、第620号）